

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 25 年 4 月 30 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 物質—細胞統合システム拠点

職 名 拠点長

氏 名 北 川 進

助成の種類	平成 24 年度 ・ 社会連携助成			
事業名	オールラウンド型科学コミュニケーション活動の展開			
実施期間	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日			
実施場所	京都大学iCeMS、科学フェスティバルやシンポジウム会場(京都パルスプラザ、つくば国際会議場、兵庫県立人と自然の博物館など)など			
参加者	総数 約960人	内 訳 「成果の概要」参照		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(活動の報告冊子など)			
会計報告	事業に要した経費総額	2,939,283 円		
	うち当財団からの助成額	2,900,000 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) WPI運営経費、戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)		
	経費の内訳と助成金の使途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		デザイン・制作費(ポスター・教材のデザイン・印刷など)	1,449,715	1,449,715
		消耗品(活動で使用した教材など)	194,114	194,114
		消耗品(文房具や機材など)	190,762	161,480
		施設使用料	322,980	312,980
		謝金	292,600	292,600
	旅費	104,640	104,640	
	通信運搬費	221,286	221,286	
	その他(情報収集のための学会参加費や音声書き起こし費など)	163,186	163,185	
	合 計	2,939,283	2,900,000	
当財団の助成について	<p>(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)</p> <p>今回の助成によって、多様な人々にアプローチするための新しい試みを複数実施することができた。例えば、幹細胞(ES/iPS細胞)をテーマとした高校生向けの教材を開発する際に、イラストレーターに教材のデザインを発注することができた。また、高校生向けの実験教室のポスターの制作をデザイナーに委託することができた。このポスターのデザインは開催報告冊子にも活用することができた。</p> <p>科学コミュニケーション活動に対する既存の助成制度の中には、デザインやイラストなどの外注には予算の使用ができないものがあるが、幅広い人々の参画を目指すには、すぐれたデザインの教材や告知ツールが必須である。貴財団の助成を活用することによって、より質の高い活動を実施することができたと思われる。</p>			

成 果 の 概 要

京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS) は、本助成事業を活用し、平成24年度中に以下の12の科学コミュニケーション活動を実施した。

1) 成人&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
高精細デジタル化技術、あなたなら何に使う？～名画×語らいでアイデア湧出～	2013年 2月1日	京都大学総合博物館	18人
新春！ すごろく de iPS 細胞～遊びから覗いてみる、再生医療の未来～	2013年 2月23日	京都カラスマ大学/ 有斐斎 弘道館	22人

イタリア美術に関わる展示がなされている会場で技術の未来を考えるワークショップを実施したり、科学技術に限らず幅広い分野の講義を提供しているNPO 法人京都カラスマ大学と連携したりするなど、これまでの活動ではアプローチできていなかった層の人々を巻き込むための試みを行った。

2) 成人&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 出展ブースにおける教材の展示	2012年 6月13-16日	国際幹細胞学会第 10回年次大会 (ISSCR2012) / パ シフィコ横浜	約60人
宇宙箱舟製作委員会出展ブースにおける教材の展示	2012年 8月21日	教員のための博物館 の日 in ひととはく/ 兵庫県立人と自然の 博物館	約40人
第13回 iCeMS カフェ：iPS 細胞と「研究」とわたし	2012年 12月8日	京都大学 iCeMS	12人
第14回 iCeMS カフェ：iPS 細胞と「倫理と社会」とわたし	2012年 12月9日	京都大学 iCeMS	12人

中学や高校の教育現場で活用されることを目指した教材の開発を行い*1、学会や教員向けのイベントなどで紹介した。また、iCeMS が主催するサイエンスカフェを実施し、参加者と若手研究者の間で活発な議論が交わされた*2。

京都大学教育研究振興財団助成事業 平成24年度 社会連携助成
「オールラウンド型科学コミュニケーション活動の展開」

3) 青少年&科学・技術への低関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
中学生向けの授業	2012年 7月13日	奈良県内の中学校	78人
中学生向けの授業	2013年 3月1日	大阪府内の中学校 (授業は京大内で)	48人
京都大学 iCeMS の出展ブース	2013年 3月16-17日	科学・技術フェスタ ／京都パルスプラザ	524人

科学・技術フェスタにおける展示ブースでは、親子連れにも楽しんでもらえるような様々な工夫を凝らし、多くの来場者を惹き付けた。また、Facebook ページを活用して、会場外の人にも展示ブースの様態を中継した*3。

4) 青少年&科学・技術への高関心層にアプローチすることを目指した活動

活動内容	日時	会場	参加者
最先端の科学をみんなで共有する方法を考える	2012年 10月21日	第7回女子中高生のための関西科学塾／ 京都大学 iCeMS	20人
高校生向け実験教室「iCeMS/CiRA クラスルーム 2012: 幹細胞研究やってみよう! まずは観察から」	2012年 11月18日	京都大学 iCeMS	79人
京都大学 iCeMS の出展ブース	2012年 11月24日	WPI6 拠点合同シンポジウム「世界トップレベルの科学を愉しむ」／つくば国際会議場	約50人

iCeMS/CiRA クラスルーム 2012 には、近畿地方を中心に全国の 138 校の高校から、425 人もの応募があり、その中から 79 人が参加した*4。来年度は高校生だけでなく、高校教諭などを対象とした研修を行う予定である。

*1: 幹細胞教材に関する記事が朝日新聞に掲載された。「すごろくで iPS 博士 京都大研究者ら、高校生向け制作 (2013 年 1 月 30 日掲載)」添付資料 1 参照。

*2: 開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 2 参照。

*3: <http://www.facebook.com/fest.icems>

*4: 開催報告は iCeMS のウェブサイトにも掲載されている。添付資料 3 参照。